

お月見

今年の十五夜は9月10日です。三方にお団子を乗せ、季節の作物、芒（すすき）等の秋の草花を供えて、美しい月を家族そろって楽しむのがお月見です。

お月見は平安時代に貴族の間で月を眺め、その風情を楽しむ観月の宴として、唐の風習にならって始まりました。江戸時代から月見の習慣は市中に広まり一般的になりました。

旧暦の八月十五日の月は、十五夜（中秋の名月）、旧暦九月十三日は、十三夜（後の月）といいます。

この二晩の月見を「二夜の月」といいました。どちらか片方だけ月見するのは「片見月」として忌み嫌

われました。夜空に燦然（さんぜん）と輝く十五夜の月と秋が更に深まった空に少し欠けた十三夜の月、それぞれに風情があります。

十五夜は里芋を供えることから「芋名月」、十三夜は里芋の他に枝豆や栗を供えることから「豆名月」「栗名月」とも言われています。

江戸では丸い団子を作り、里芋、栗、枝豆、柿、芒等を月に供えました。

供える団子の数も十五夜にちなみ15個や一年の月の数の12個等があります。

江戸では団子作りは朝早くから家中そろって行うことが縁起がよいとされていたようです。家庭で作る人もいますが、団子はスーパーやコンビニでも買えます。美しい月を愛でる風習は大切にしたいものです。

○九月の言葉

初秋の気配が漂ってきました。耳を澄ませ、心を澄ませて、秋の到来をキャッチしましょう。

○語彙力チェック

①「丁々発止（ちようちようはっし）」とはどんな様子を表す語か。

A 激しく議論をする様子

B てきぱきと物事をこなす様子

C 急用で予定が狂った時の様子

②「ちようちん持ち」とはどんな人か。

A 力の弱い人 B 自慢したがる人

C 他人の長所を宣伝する人

③「頂門の一針」の「頂門」とはどこのことか。

A 頭の頂 B 山門 C 山の頂上

④「佇立（ちよりつ）する」を平易な言葉に言い換えよ。

A いっしょに立っている

B かろうじて立っている

C じっと立っている

（解答）①A ②C ③A ④C